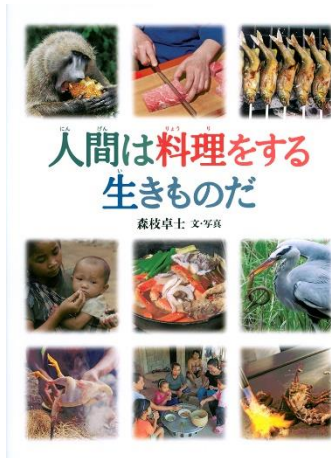


福井県優良図書

令和7年1月分

○人間は料理をする生きものだ 森枝卓士 // 文・写真 【小学校低学年～】



福音館書店 ¥1,540 (税込み)

人間も動物の一種ですが、本書を通じて「料理」という視点から人間と他の動物との違いについて改めて考えさせられました。私たちは生まれた時から料理を食べることが当たり前になっていますが、本書を読むことでその「当たり前」が実はとても特別なことであると気づかされます。

美しい写真や世界各国の料理が紹介されており、子どもたちと一緒に料理を楽しみたいくなる一冊です。料理のすばさを再認識するとともに、日常の中に隠れた人間の工夫や進化に感動しました。

○ねえねえ、きょうのおはなしは…… 世界の楽しいむかしばなし 大塚勇三 // 再話・訳 PEIACO // 画【小学校低学年～】



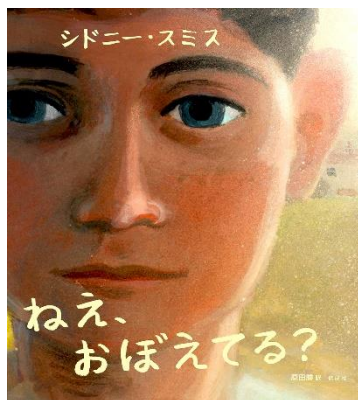
福音館書店 ¥1,210 (税込み)

日本の子どもたちに世界の楽しい昔話「グリムの昔話」や「ノルウェーの昔話」を翻訳出版なさった故大塚勇三さん。大塚さんがこれまでに雑誌や単行本で子どもたちに紹介した、世界各国の昔話の数々の中から20話を選び刊行された一冊となっております。

一般的な絵本のような挿絵はありません。読みながら自分でその状況、風景や登場人物の顔、服装などを想像しながらそのお話の世界に入り込める作品となっております。

様々な世代の方に読んで欲しい良書だと思います。

○ねえ、おぼえてる？ シドニー・スミス // 作 原田勝 // 訳 【小学校低学年～】



偕成社 ¥1,760 (税込み)

お母さんと子どもが、「ねえ、おぼえてる？」と以前に住んでいた町での思い出を振り返ります。お父さんとお母さんと子ども、3人での楽しい生活が、ほんのりとした色彩の絵の中に浮かび上がります。

その後、お母さんと子どもが二人でこの町に来ることになったいきさつはわかりません。子どもは、お母さんと二人の生活になっても、前を向こうとしています。

安心できる環境で、子どもが健やかにくらせることを祈りたくなる本です。

○こどもベヤのよる 出久根育 // 文・絵 【幼児～】



岩波書店 ¥1,320 (税込み)

こども部屋に夜がきて、起きているのは、いっちゃんだけ。まっ暗の夜にのみこまれないよう、ふとんをすっぽりかぶって息をひそめる。

表題作「こどもベヤの夜」ほか2話で構成。夜に不安を持つお子さん、寝かしつけに困っている親御さんに助けとなるだろう。

絵が東欧を思わせる雰囲気や幻想的である。

想像力を揺さぶられる物語展開で小学生高学年でも楽しめるのではないかな。

○わたしを描く

曹文軒 // 作 スージー・リー // 絵
申明浩・広松由希子 // 訳【小学校高学年～】



娘のウロを絵かきにするために、父は絵を教え、有名な絵描きを先生に絵を習わせていた。そんななか父は、ウロに自画像を描くことを勧める。

ウロが選んだキャンバスはウロと同じ名前の「雨露の麻」のキャンバス。そのキャンバスに描かれた自画像は、両親と共に満足していた。ところが朝になると自画像に変化が…。何度もくり返し描き直ししながら、自分を見つめ直すことに気づかせてくれる成長の一冊。

あかね書房 ¥1,980 (税込み)

○ともだち

椰月美智子 // 作
【小学校中学年～】



仕事で忙しい母さんとの2人暮らしのジュン。6年1組のクラスメイトは幼なじみのルイ、スポーツの得意なシン、隣の席のスカイたち。みんなで夢中になった運動会をはさんでいろんな事件や出来事が起きます。

子どもたちの生活や家庭環境が見え隠れします。そして最終章の卒業式、卒業証書授与で初めて明かされるフルネーム。名前を見ながら登場した前のページを確認したくなってしまいます。今の時代を輪切りにしたような作品です。子どもにも親にも勧めたい一冊です。

小学館 ¥1,430 (税込み)

○うまれたよ!ヤモリ

関慎太郎 // 写真・文
【小学校低学年～】



最近あまり見かけなくなってしまうけれど、誰でも一度は見たことがあるヤモリ。身近な存在だけど、その生態は知らないことばかり。おかあさんやモリがカルシウムをためて卵を産むこと、卵は2つ、産む場合は必ず同じ場所で寿命は5年。卵の殻を突き破って出てきたあかちゃんヤモリが、誰にも教わることなく獲物を捕るということに驚いた。

蛾やクモを食べる写真にはかなりびっくりするけれど脱皮の様子は興味深いものがある。生態を知るには面白い本だと思う。

岩崎書店 ¥2,640 (税込み)

○ぼくのねこポー

岩瀬成子 // 作 松成真理子 // 絵
【幼児～】



道徳の教科書に載せたい物語。迷い猫と出会って、飼いたくなってしまった少年の物語です。猫への愛しさが増していく描写。母親がひろい猫を飼うことに反対するのではないかと、ためらう心理描写など言葉にしてあり、気持ちの変化が物語られています。

自分の気持ちを自覚したり、それを言葉にしたり、表現して誰かに伝えたりすることを学習するのに良い素材であると感じました。

PHP 研究所 ¥1,430 (税込み)

○アンリくん、どうぶつだいすき

エディット・ヴァシュロン // 文
ヴァージニア・カール // 文・絵 松井るり子 // 訳
【幼児～】



アンリくんとねこのミシェルくん、仲良しふたりは汽車に乗っておばさんの農場へ遊びに出かけます。初めての体験、新しい出会いの冒険の一日が始まります。

アンリ君の動物のとらえ方がとても興味深く、数をかぞえ始める子ども達にもピッタリの絵本でしょう。

2人の会話から、お互いを思いやり合っている様子里、社会生活デビューから得る、人への寛容さの学びが思われます。読み聞かせにも読みやすい文章で、柔らかな挿絵が印象的です。学びの絵本として魅力的な一冊です。

徳間書店 ¥1,980 (税込み)

○ひき石と24丁のとうふ

大西暢夫 // 作
【小学校低学年～】



「余分なものはない」「足るを知る」ことのいさぎよさや強さ、そしてさすがにしまでが伝わってくる本作品です。主人公小山田ミナさんの、豆腐作りの世界に、一気に引き込まれました。「一人の人として、やると決めたことをやるだけ」という、人間の強さや優しさも感じることができました。

写真家の大西暢夫さんが豆腐作りを一心に撮った写真からは、小山田さんの息づかいだけでなく、人生そのもののまが伝わってくるようです。見る人それぞれに感じるものがあると思います。

アリス館 ¥1,760 (税込み)